

回覧

清川歴史公園かわら版

11月6日「清川歴史公園 関所まつり」開催

「新そばまつり」や「抹茶体験」など多彩なイベント

紙甲冑を付けて来場者をお出迎え



十一月六日(日)、清川歴史公園・清川関所と清河八郎記念館を会場に「清川歴史公園 関所まつり」を開催、生憎の空模様にも関わらず、大勢の来場者で賑わいました。
この関所まつりは平成三十一年四月にオープンして以降、計画されてきたイベントでしたが、コロナ禍により延期。清川地区の施設や店舗の協力を得て、今回初めて開催することができました。

【新そばまつり】

限定50食で用意した手打ちの「新そばセット」は好評販売しました。

【観光ガイド】

きよかわ観光ガイドの会による「清川まち歩きガイド」では、参加者の行きたい場所へご案内して、手作りの記念品をプレゼントしました。

生憎の空模様でも大勢来所賑わう



参加者からは「ゆっくりと丁寧の説明してもらったので、とても分かりやすかった。史跡めぐりが楽しかった。」等の声が寄せられました。

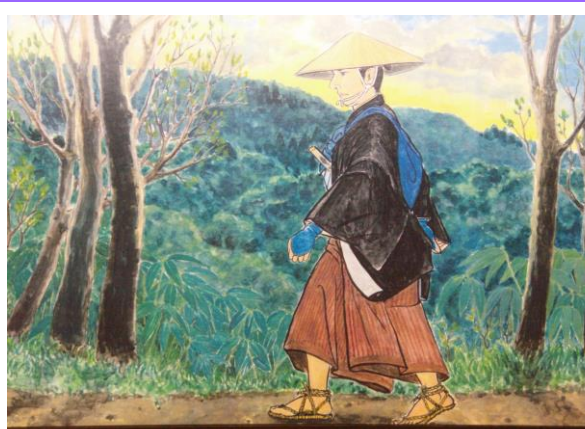
【抹茶体験】

参加者は講師に淹れ方を教わった後、自分で茶筌を振って点てた抹茶と和菓子を味わいました。(次ページに続く)



- 発行所
- 清川歴史公園
管理運営委員会
- 庄内町
立川総合支所
立川地域振興係
TEL: 0234-56-2217
- 清河八郎
大河ドラマ
誘致協議会
- 庄内町
社会教育課
TEL: 0234-43-0183

紙芝居コーナー(清河八郎) 家出・東条一堂塾に入塾 ⑤



祖父・父に、事あるごとに江戸に出て学問したいとお願いました。が許されず、ついに一八四七年五月二日、まだ夜が明けないうちに書置きを残して一八歳の八郎は清川を後にしました。一路江戸に向かう途中、上山で追っ手に会いましたが帰してやり一人江戸に。東条塾での学習ぶりはすばらしく当時の日記には「まだまだ努力が足りない。これからは午前二時まで学問し、机に伏して四時からまた学問に打ち込んでいこう。」とあります。まさに東条塾では、水を得た魚のようでした。後に東条塾三本指に数えられるようになりました。また、八郎は、安積良齋塾・昌平こう(江戸幕府の儒学を主とした学校。主に旗本・御家人の子弟を教育した。)にも入り学問を積み重ねたのです。(次ページへつづく)

【紙甲冑着付け体験】

清河八郎記念館では「紙甲冑着付け体験」が行われ、武士になりきって写真撮影を楽しんでいました。「甲冑は想像より重たかったが、武士はより重い甲冑を身に着けて戦さをしていたのは凄いと思った。」と感想を話してくれました。



【カニ汁販売】

地元の商店ではモクズガニを使ったカニ汁を販売、熱々の汁を啜って冷えた身体を温めていました。



十月三十一日から十一月二日・四日

【御殿茶屋 ワンコイン感謝デー】

十月三十一日(月)から十一月二日(水)・四日(金)の四日間、清川歴史公園・御殿茶屋で恒例の「ワンコイン感謝デー」が開催されました。この企画は清川地区の皆さんを対象に、日頃のご協力に感謝してワンコイン(500円)でそば等を提供するというものです。四日間でのべ100名の住民にご利用いただきました。



また食事終了後には、地域おこし協力隊・音楽推進委員の飯田陽子さんによるミニコンサートも開催。最終日は佐藤千晶さんにもご出演いただき、参加者はうっとりとした表情で聞き入っておられました。

食堂売店部会・観光案内部会

合同視察研修会

九月二十六日(月)に食堂売店部会と観光案内部会・管理人合同の視察研修会を行いました。

まず湯殿山総本寺瀧水寺大日坊を視察。ご住職のお話の中で「御諸皇子」ゆかりの皇壇の杉が話題に出て、清川の御諸皇子神社が頭に浮かびました。この後、安置されている即身仏をお参りしました。

また昼食は西川町の出羽屋さんで「季節の山菜料理」をいただきました。食事の味付けや器について色々な意見や感想が交わされました。



紙芝居コーナー(清河八郎) 文武両道への道 ⑥



一九歳の時、弟の熊次郎の死で清川に帰り、家業を助けていましたが、「どうしてもまた江戸に出て学問を」と父に頼み、三年間の遊学の許可を得ることが出来たのです。父は八郎に次の句をおくりました。「雲井まで 昇らば帰れ あげひばり」二一歳の時、八郎は京都・九州を旅し「学問のある者は武術にもすぐれているべきである」ことを知り、二二歳の二月一日から、神田お玉が池の千葉周作道場「玄武館」に通い始め、めきめきと腕を上げました。普通三年位かかる「初目錄」を一年でとり、二九歳で中目錄免許を得ることができました。同じ道場の坂本龍馬はその年に初目錄をいただいています。

(次ページへつづく)

11月25日から27日まで「オータムナイト清川関所」開催

十一月二十五日(金)から二十七日(日)の三日間、清川関所(川口番所・船見番所)で「オータムナイト清川関所(地域おこし協力隊・玉越隊員主催)」を開催いたしました。



窓の明かりが灯台のような船見番所

この三日間は午後七時半まで開館時間を延長し、館内の展示をご見学いただきながら、角蔵珈琲さん(狩川)からご提供いただいた、清川珈琲やたこ焼き、ホットドックなどを来館者にお召し上がりいただきました。

今回初の試みとして、DJ HONDAさんによる音楽を楽しむ空間を館内で演出、お客様に晩秋の夜をゆったりとした時間で過ごしていただくことができました。

アフタヌーンティー講座



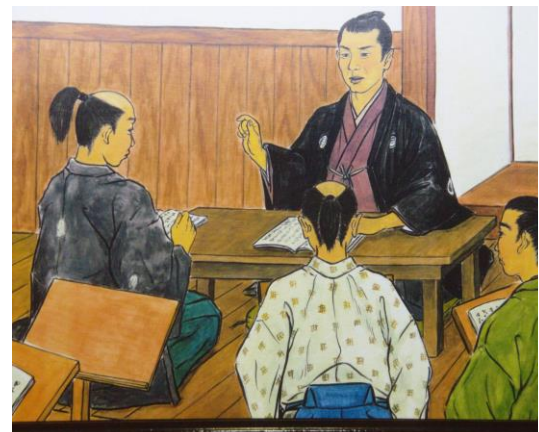
また日替わりイベントとして、「アフタヌーンティー」や「アフタヌーンカフェ」を開催して、普段の清川関所では体験できない講座をお楽しみいただきました。

来館者からは「昼間とは違った雰囲気、川口番所や船見番所を見ながら、ゆったりした時間を過ごすことができた。」「仕事の帰りに立ち寄れてよかったです。」との声が聞かれました。



清川関所は【十二月一日から二月二十八日まで】冬季休業となります。

紙芝居コーナー(清河八郎) 清河塾開塾 ⑦



湯島聖堂に天下の秀才たちが集まる昌平校がありました。そこに入るためにまず「安積良斎塾」に入って推薦を受けました。一八五四年三月に晴れて入学しその感想を故郷に手紙を書いていきます。「学問のためにはまるでなりません。聖堂より大豪傑が出たことがなく、田舎では公儀の聖堂といえは大変なところと想っているでしょうが、実際はとるに足りないところですよ。」八郎は昌平校をやめて、神田三河町に「経学・文章指南清河八郎」と看板を出し、清河八郎と名乗りました。江戸で最年少の二五歳の学者誕生でありました。二回の火事に逢いましたが、三回目神田お玉が池に「経学文章・書・劍指南清河八郎」と看板をかかげました。江戸広しといえども、学問と剣術を同時に教えらるる塾は、清河八郎塾たったひとつだけでした。当時の日本を取り巻く国際的な政治状況が八郎の学者としての成功を許しました。(次ページへつづく)

第3回「清川歴史公園・歴史講座in清川」開催



十一月十六日(水)、清川歴史公園に鶴岡市郷土資料館の今野章氏を講師としてお迎えして、歴史講座in清川「酒井家庄内入部四〇年」開催しました。

第三回の講座は「庄内藩江戸市中取締について」と題して講演、清河八郎先生が創設に関わった浪士組から派生した新徴組と庄内藩藩士、新整組が幕府より命じられて「江戸市中の治安維持」について、数々のエピソードを交えながら解説いただきました。



受講者からは「新徴組が狼藉者を取り押さえたら幕臣だったという話は衝撃でした。幕末における江戸の治安がいかに悪化していたかよく分かりました。」との声が聞かれました。

また講演の前には、きよかわ観光ガイドの会による「まち歩き」を実施。清川関所周辺や御殿林などに参加者をご案内しました。

なお来年度も館内の企画展示に沿った講座を開催すべく、現在計画を進めております。



八郎グッズ&八郎スイーツを販売
少年ボランティアによる八郎PR
in 関所まつり

幕末は「清河八郎」が幕を開け、「坂本龍馬」が閉じた！
清河八郎って？

- ★清川村の造酒屋の長男。
- ★一八歳で江戸へ。学問を学び「清河塾」を創る。
- ★坂本龍馬らと北辰一刀流を学ぶ。山岡鉄舟と「虎尾の会」を結成。日本を守る為、変える為動き出す。
- 西の吉田松陰 東の清河八郎
- ★「新選組」「新徴組」の前身である「浪士組」を結成。
- ★明治維新の火をつけた人物である。

維新の魁
清河八郎を
大河ドラマに！
【清河八郎】大河ドラマ誘致協議会

一八五五年、今後の方針を立てる為帰郷した八郎は、七年間親孝行でできなかったことをわび、母を連れて「伊勢参り」を思い立ちました。父の許しをもらって、母亀代四〇歳、下男貞吉の一行は、鶴岡を四月二一日に出発し、九月一〇日に帰着しました。その間一六九日の間の日々の見聞を母の老後の思い出の種に、また弟や妹の伊勢参りの参考になろうと考え詳しく書きとめました。全一卷八冊、これが西遊草です。一行は越後路をたどり、信州・善光寺をお参り、四月末から五月初めに伊勢参りをすませ、奈良・京都・大阪と四国に渡って、金比羅をお参りしました。そして、瀬戸内海を渡り、安芸の宮島、岩国の錦帯橋を見て、その帰り道に、京の祇園祭り、大阪の天神祭り、天橋立、近江の石山寺、三井寺江戸では一か月ほど芝居などを見物して母の心残りがないように、くまなく連れて歩きました。八郎は、道中母に心づかいし夜に宿屋の薄暗い灯の下で、日々の見聞をつづったのです。(次号へつづく)



紙芝居コーナー(清河八郎)
西遊草(奉母行) ⑧